源氏物語更入

全

源氏物語奥入

きりつぼ

桐壺

ある時にはあらの垣にくるまをかけて人を乗せる

むさゝびの宮のうへにさてなるこゝろよいとしまさるさるの

やうに舞ふ事をまねぶるものの博士なる人をこゝろ家姫君

人は数の人にはあらずあるとかはるまでもあるべ

長恨歌

帰来池苑皆依舊太液芙蓉未央柳對此如何不淚下

芙蓉少面柳似眉在天願作比翼鳥在地願連枝

曜文庫
深川文庫藏書

[illegible]

書かなし

寛年遺誡

外出之人別貴者在鎌中之不可直對
耳市之濃朕之失之慎之
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
指環[illegible]取金鈿金合名於其半板仮者之四我

[illegible]献是物尋常好
[illegible]
夕殿[illegible]思情[illegible]　秋燈桃書未能眠
[illegible]
日　春宵花露日[illegible]恨此[illegible]石[illegible]
[illegible]
[illegible]一刻[illegible]夜行[illegible]人　初[illegible]時[illegible]四刻
[illegible]一刻[illegible]宿[illegible]印一刻内[illegible]一刻[illegible]
[illegible]年二月[illegible]日[illegible]代[illegible]氏二人之[illegible]金母屋二[illegible]代
板[illegible]庭[illegible]信子[illegible]庭孫[illegible]中間有[illegible]人[illegible]

大臣座直南中一間直四座二段目冠者座 直四面四座
又寄道賀奏 先十四大臣渡百英四座引入法還英寄中 前置四座
具皆風柳樹
座次冠者二人退出出仕侍所殿衣裳此間南廂給
祿出庭出諸舞 冠者和仕花門打揚英水晴被祿
次冠者二人入仙華門出庭中 拜舞 四位兼仁卿
陪膳先是 宴儀御供侍所侍所 南源氏 伯此座 伯四位親王
出門侍者直廂御膳 次伯伯
深更大臣以下給祿南源氏宅召調 七食英參
諸陣所々 五穀之二年親王元服日七食之內義
寄中具教參 十具 大臣拔出 伯之調之事
真調 伯 高家五真 調 到 南殿 假信 東宴
春宴不面立重横十合 侍 小物有 宴自同長
樂門出入上御殿 弁 中分 殿 史 人 自同長
相撲 使 合 弁 中 三 左 大臣 二 右 三 左
右 三 番 二 番 人 有 二 內 紀 有 第 殿 一 御 宴
一 內 宴 相撲 有 一 內 宴 物 一 內 結 四 宴 一
內 殿 物 先 有 御 西 殿 一
此 中 一 右 立 番 載
或 中 有 奥 信 有 此 右 御 殿 一 一 宴 宴
相 宴 四 殿 一 立 番 載 八 異 殿

はしがき

まことのうちなるかたち

本居宣長

楊貴妃有女初長成養在深宮人未識

伊行記

今のをんなのすがたもまことのうちにそなはりたるものにて

ちからとしたがひうちとけてあるさまは

草葉のにほひにうつりて匂ふがごとくあるもの

觀此年嬢新粧華論令江以石整身

ゆるやかにしたがひてなまめかしくさく

あるものやうにけしうしなすもこれまことのうちなるかたち

いつこうやうにあるべきものにあらず

花や月のうつくしきもの

草木のうつくしきもの

妹とせのうつくしきもの

ものさうのうつくしきもの

へうらう閑のつくりもあるか

ものをいひかたちをかのうつくしきもあり

すべていちおのあれぬまことにしたがひてうつくしき

ものにて世の中とありとなりて五倫五常

風俗

あるものやうにけしうしなすもこれまことのうちなるかたち

さら[illegible]

[illegible]集 下

吾以為[illegible]

さら[illegible]何[illegible]あり[illegible]

二道 文章 [illegible] 孝悌可有[illegible]

三

三史 史記 漢書 後漢書

[illegible] 毛詩 左傳 周易 尚書

三道 紀傳 明經 明法 [illegible] 伊行不通

かくのごとし [illegible]

文集 秦中吟

天下無正聲　悦耳即為娯
人間無正色　悦目即為姝
顔色非相遠　貧富則有殊
貧為時所棄　富為時所趨
紅樓富家女　金縷繍羅襦
見人不斂手　嬌癡二八初
母兄未開口　已嫁不須臾
綠窗貧家女　寂寞二十餘
荊釵不直錢　衣上無真珠
幾迴人欲聘　臨日又踟躕

主人金長娘
日宿且勿飲
當歌女高歌
多事此孤歌
閑思新舊婦

置酒陶玉壺
雖我新事遠
歌罷生平意
歌晚老於妝
再拜婦意如何

うつせみ

人間をうとくうつれる世にこそ
いとの糸の糸のいくすぢ物思ふ
すぢ河のすぢの事共を
とゝ思ふ世事とてなりの事共

二のすぢ
一筋ぞ

世界二つの歌日の歌
なりの一はさうつせみの
二タスジ

歌謡か

なりの　何神子　長歌中に同歌
なりの　世俗不相応の者可笑中
　天一神　金横絶天天一神　央月土將軍吉凶新
　　九天一神巡方
る者の如此者中宮の無不量矣

八月猶ちる処指ニ八無ニ毎年ニ百各年沒実未
有中作之年只和氏作之調不傳歟作者是
可考可思事
とうじらさま
あまのすむ海のうらあしけうらめ也を搖
男といそ有人人を思ふ事とりあつまつ事ぬとて
すらあのうらの山より人ぬとるくを人ぬつらいなる
りはうこうるてこ紅を久ぬ同し人を立てるを
すをつもはる
伊行 賀茂社歌伴皆勅撰 吉月花時を恨恋

伊毛所々反世左可反中宮頃丈不稀天世和所出可度比知
可左乃比知可左のあ発し やかんなむしていを左出
まやうう可左やうして未うを左をさ
高砂名まうまの松山うを左のこ天ぬ日をなを花
おをすぬおをぬすとやいいしいて反年をの中のうを寸なを
さにのこうれをうしのたまうを月のあらを見ぬ
うを花 鄰の名ものうを花きのを
白雪ぬ人をうをなをうをてをうをぬの 初春なを人ぬをまを
ぬをなのをを花をうをを人をあをうを移ぬ家
あをまをまをうをうをあをまをまをうをのをうをひをまをの

りちうりきんへつるさかいりのこゝろあゝされとも前世のゆく
ゆめとこそおもふゝ夢れとあはつうれ行ゆくゝまゝに筆まかする

文政十三年冬

夜深燈火盡　霰雪白紛々
吟者頻不斷　老骨體無渦
當窓寒氣　侵入骨中寒

来年のうらをまつにそハ三笠山とうたふ
年中妻あるこゝ
一家さこそつゝさふ君をさ千代とも人をすへつくかけ代家おさ
にほひ給ふも忍ひ梅の花をこ瓶　一家もおなしとおもふこれ也

山代名

さた里すなやいすまちんく股礼いゝまちんからや末坊乃
平村多川来天仁や宮いゝ帝　佐いきけや乃利多
川来平利多つまそよ

文政十三年十

夜窗頻難別　夜闌吟者　宿利別
陽明有吟者　江杜月澄徹
吟罷継其位　叢潤悵然絶
語載買天人　江黙直後背
揖緒帆桂立　有婦顔如雷
　　　　　　嬉嬉十七人

夜臣似真陳　賢と陸奥月
信岡雄平婦　欲住何様加
一用一雪月　住用言不説
あつまやのまやのあまりも
ちよちよちいさきこのとしも
うすひもとけしもあるを
ものとうれさしあれば
らいてきもてうらやましと
五月七こうくつぶしにみくるのふるさしに
くるしかるあこのうらも
とうまてのうをもて
いかうとこの山なるいはらえ
いさとこうへて五名りすれ

遊佐
久兼　ちをと
比六　三友
今日　必定不
仮能　三友
聖霊　振舞
三友　商相
一源　帽子
猶　中商
こんのようこうまち

自閑何不
無文者の雅
酒器　吟味
酒器無已時
一瓶帽子
吟辞　諸縁

もとの枝

吾妻路の手もとし 桜がりへいかし はなハさかりなんとていこん
浪こてもへぬる 欲の草かなしく くらくすくなくこそあ
行路のあやまの 胡蝶みなそらへふこゑあし人を
保留呂保世利　東風し　相邑　左楽
あかあつむの露の下草 ときあれハ 須もすさめ波の笛知し
山里もなく春草にあまりか 大あつむの枝に絶ぬの陰ハ 糸れ
つのまのかさらす陽のはし花 ときあるも身に花出すまし乱れ
にくらしき人のきたに来る ぬれ衣ハ そひかあく波いさの浮ん
底しまあくさるらみ要ある世なりせハ つらへとこそ数々まし

青海波流　少将作之
梅枝返初　桐棣螺早年
前花梅梅八　蝶蝶玉果色
山桑冷候天皇清時皮千調日照清調

なにとあらし調
万葉集也
驪様不有なにとあらしと申あしくさまいふ事をきし
しきてくとすく程りり宗
然も其次くりりも果如春の朧月夜にうきの妖
貫河　律

ぬまて可波の世との世波良こる米久良世波良加尓　ぬ
留与波名久天於也た久留川未於やた久留川
波未之天留波之之加た良波也波まの伊紀留久
川加比尓加年久川か波こ千加伊乃保曽之支乎
可方左之波ま天守波尾こ利ま天美や紀加ら波
年ゝゝそあれ禾れむかし八雲山さら行時もありこそ
こ留人もかまよ山里の桜花むかしのちりかん後そさかまし

石川呂

伊之加波乃古未ゝと尓於比乎と良れ天可良支
久以須留巳比須留

伊可奈留以可奈留於比曽波奈多於比の奈
可波之る伊れ古留加可也留可女世留加奈可波左
伊礼古留可

あかし

時しもあれ秋やは人のわかるへきあるをみるたに恋しきものを
神有りとも時しらはふかしとかく袖ぬるゝ折はなかりけり
ちりぬるそての人はよろ花なほは大内山とも人もいはなかり
いかなしくかゝる折も深てまし人のなさ
こゝれ本のこゝろのなほてはなほもなきしらんやなしはらや
すゝめのもとよのありやせの中の

有所望之事　劉夢得

唐突様ニ初見ハ武昌李仲平仙駕ニ相見ス
此ノ事ハ百ノ事人ニ不知鄂渚懸ニ輝ク衣冠
魂ハ遠ク西ニ帰ル六月七日漢陽江ニ行ク賀客
一集ニ元　つく縣ハ百日ハ人ハ知ラズ
人ノ事ノ新ナル花ヲ求ムベシ
こうしてすることもなくなれば
あてしくあることもなくなれば
死ぬ者ハ此ノ世ニ重　舊花衣冠誰ヲカ為
さうよ

ちりやうの外のいうまこと
まことやうの人のこまくりさま
この不ことをうしるるの心ふかきをさうるあるも
しるまことをうさこと
生死　名石市記
名石生成まの人ハ勅宣国成まの人断手足を服
婦有飢寒者何所一周中今日人疑
あるのことをあるの月ハ
いまいのちのちくまこと
陸書

芳荊新蓉蕊毋之義 白牡丹日西方之異之
山さくらさくらゆくとをへつゝ春をとへ人の心なるし
数かゝらぬ身のとなるくれなゐ
をとるきくはうゝ落合今日をうるもんあるあもと住
庭九月竹葉紅黍熟 此庭著余入之等
うゝ海 律 長生寺破
しらさこの九伊九たの九かた年の戸尓古天屆之良
夏去百川皮赤色百万や名文
勇礼毛かと九年未之毛可上おゝ毛可之新利年
九美年乃見勇かゝ尓世年万多文名尓之加毛

九五毛万多伊尓年四利皮名の尓九ゝ伊多屆
皮川皮名尓あ皮未之毛の多九田和皮名の
勇世乃 史記
於是平相成玉面侯之伯倉代就對於魯
戒侯貪日我文王之子武王之弟公
旅天下亦不賤乎 然一体之臣数飯之起以得
士猶見天下之賢人子之昌情無以国賢人
けふちる里
うちかしまりきの色をうゝ情深為りあはせ
いかゝのとうゝとてるとこのすゝ

かゝけるのちはかくしこ時なりてひとつゝなきぬ日も経ぬ
いつもこそかく出ておはしますのしも見やられと聞えける
まかりけれて
君こそせおほんのかたへのなさしつかはすに都ありしの空をたけの
あはれあはれもおもふ此の御沙汰やる門さへぬかされぬ
とさしあへも
いとしくる旅宿の思しかもうらやましくもこそかなしかり
三千里外
こころのみをよふ人あらは古年時々にはおもはれてさふらふ
いかなるゝまゝとか

しあはせなまつかしもさりしもこちすまふらのなとあからんこそ
やむかきこれり
三五夜中新月色　二千里外故人心
行年中秋の夜の月寺
禁中宿直に侍て
去年今夜侍清涼　秋思詩篇獨斷腸
恩賜御衣今在此　捧持毎日拝餘香
これはきやもかのつまよおもひて　あはれなれさまいけれなりしは
鳥長無翼馬時文没　一葉一落気未秋
史記
趙高指鹿謂馬　秦二世時
王昭君

翠竹堂前新作律　教臣尋得寒山席
香風吹断悲愴倚　瀧水流淺夜徑行
故自一声霜後鳥　漢家万里月前勝
昭君分明黄金賤　定是孫兒孝弟之
ここに西望[illegible]所り　左勤
文集　秀鐘叢下新下山居草堂五架之府
新草堂居諸相程行編壇
十年三月廿日到嵐之如濃上十四年二月
十一月退山廃之於渡中任舟乗便之嘉白到会
書　七十韻之中

同五年六月見面　請到文明竟不眠
生涯本空業障上　帰去俱抛白日逢
作半眺花於似夢　多逐寒荷半偽泉
酔悲懐旧出無窮　冷苦文類暁燈如
妹の門ゆきすきかてにいへの里のあめしからなんあまやとりせん
あし
なまめきたれつけりの春風のしる嫉しき春雨の跡なし
あきらすみもあまた人ものころもし佛風やまさに庭をもとめ
行かてもおもかなくしおもおもてにいひきくほどんかりけり
あるもてあわれはるる月の花にひかりけるも

きさらきやまちてさくら霊山にさしていまそさかりなるらん
いもの法の花は深きよりもりきりてつもりていやまさるらん
おりふしにあふかことくに年をへてしらぬ重きいてしとものかみを
うけつきをむかしの御代にうくことくに年ふり人をかへりみるのみ
あふあひとふとくあひみしかれにはふかき道をとなりぬれ
あつまちの月を夢にはくいむ浄土なれん人のうちもけや
とふらはいさよふ人のまつほとのいはれのあはれをみるも月け
久里のつき実相をもはふまきあらんとのちの君と法の
きみのたやすくはなき法華ぬくいきよりあるものよそれん
見えてともかくひとしれぬあやまち深き雲の山の神そしられ

きすかみえてもえりなきちかひてし人の香よの都にもあらん
おもふらし
こくもの法のうるはしにみ蓮華のうれしきをそれにへたてつる
まことのふたりもとはなくも人の花をかはしてあまりたるを
しかりはなれ
しのふ
あらくこうのかのさかりにひのまんいつもむせちかは実相
くの中にむかしやわらかたり実相ひとつのあかねかなる
こころのこのあさしまにかしくかのあかりのくまなからせん

五濁　見法華経

蔣詩　家多序　金華竹下園主

[illegible]

いとうたきまさらに清れたるとい[illegible]

はるゝ人ぶしこそあひよれれはのこゝくしるよ[illegible]

新蔣をいつ人おとこ他りの任その男のうしのあよ

塩の人をとこもてもすもとり　あるていとる

せきや

なかう

つくもたの山ふるさこ次も

つくもたの山のそらもまつるの元を一すて関とせう[illegible]

はるの石叶せるの可新身を

松も

[illegible]

あり住てぬ石まつ間の任対うまるの[illegible]　欲次ゆ[illegible]

[illegible]　[illegible]

史記項羽紀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

齊威王二年四年　與魏王會田於郊魏王問曰

王亦有寶乎威王曰無有梁王曰若寡人國小尚

有徑寸之珠照車前後各十二乘者十枚奈何以

萬乘之國而無寶乎威王曰寶今不以為寶與王

異

吾臣有檀子者使守南城則楚人不敢入寇

東敎細士士諸侯皆來朝五吾臣有肥子者使

守高唐則趙人不敢侵於河東有黔夫者使

使守徐列則燕人及祭北門趙人祭而門徙而

從者七千餘家臣有種首者使備盜賊則道

不拾遺將以照千里豈特十二乘哉梁惠王

慙不釋而去

寡人之治王のうちなるの御答

うすくと

[illegible]

つらかりんのふうぶてこひまきんのうしてきしうすけ

橘

橘人呂

たちばなの昔乃不秋止て女之川末あ乎上知川

久礼ゐ見天可安戸利ら手也曽ゑ也

安春可戸利巳年曽於ゑ於ゑ上於ゑ曽安春止

ま以阿女ゑ年年可大乎川乃在ゐ世於阿安春毛

春秋ゑ也曽於ゑ於ゑ安春毛左秋ゑ之也曽也

ゆなゆ阿ゆ阿ゆの阿ゆのゆ阿ら於ゑうて和とそそく

阿ゆの阿ゆの阿ゆの橘ゆゐあらも今年けハすそあのさ年

ゆゆゆのむゆのゆをいとしくうらもて秋の春来ゆる

ちすかれしたしきあらもいうせん君てとこあよなゆ春也

石ゆの緒居金春ゆ秋ゆ秋ゆ秋ゆ称 蒲林作年里源障

春有錦繡谷花夏有石間玄秋有虎溪月

冬有鐘峯雪

橘をさつきのすゆよ白ハをく 柳の枝ゆかせてしゑ

うちつけ世年をしたゆゆりの春せゆ鶯

あさうら

なをとはゆ一よ春ゆ春ゆ春ゆ春ゆ春ゆ春ゆ春ゆ春ゆ春ゆ

とくゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆつとゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

君子門々を出すまの行いてこゝに立る人の出るまを
すまのあれたるかをまこうとなれ行ふまそのこゝにて
なる出ぬくらむ世を出ぬすまあれしやさえまとせるらん
さるかてるる行年出ぬはよう（ゆる）ある人あれ物
かをくしとに行て行ふ今ふまそのこゝとを行くつまる邦
家てゝ人をなくなくれたのせをまを人つくやまこしなくまん
いめくくをとの山なるいの行いさとくこゝて五名くる家
すく海きものををきを人の心あくくしとあるを
世俗をくすのつきしとふ
とくめ

孫康家貧無油常映雪讀書

車胤字武子　南平人好讀書無油夏月則練囊盛十螢火照書

姚姬名令儀吳興人萩の上風藝文類聚

子遷高士賦序云

落葉依微風以隕而風之力蓋寡孟嘗應雍門而泣而琴之感已未何者欲須葉無不假烈風將墜之注不足繫哀響也

任昉來遷表者不可以風過又云雍門周以琴見孟嘗君孟嘗君曰先生琴之能令文悲乎

對曰臣竊為陛下有所出千秋万歲後墳墓生
荆棘游童牧豎遂以其足欲其上子孫常
君之言署之亦猶是此乎於是孝惠帝為之
降為睡而未下雉門引琴而歌之徐動宮徵
揮角羽終成曲孟賁君盧敖教
盧敖遇老仙餐
更衣呂
呂后色加于世乎也左皮年為知和加文奴股乃股
良之乃股良股文乃股奈決利之左文年為知
きり陪き之玄井の居し吾とや姑奈決均の出くるん
ひとめるの神ゐる山のうるのるさしまよらう均しをめてま
安名為不山分不之為不止左也伊仁之戸毛股礼伊
仁之戸毛加久也安利分年也不之為不上左也安股礼
曽己与之也分不之為不止左也
五節たをつ為て なをう
殿禁色 殿色之宮名
宴試
宴試ら不名一員博士以下各一員秀才試應出
貢挙夫名学生博士加暑度宴ら以見不允以下
爾更三合首試象座前又以後云等首以博
士秀生 謂之試博士并試象等前次中台試象

又 把卷進士慢門下免作之假子試 象橋
立假免又作之數居試象橋拉數居下脫器
若座狂道又作之冊象 唯之棒筋 三史之間今白讀筋
脉行道試博士前 試博士對策又云史記乃
本紀乃一乃卷三乃卷世家乃上帙乃五乃卷下帙
乃一濃卷傳乃中濃帙乃七乃卷 頭作之合
讀之試象各披帙把卷引音讀之
又作之古之未天試博士對又之文詩乃又之注
七寮掌棒筋稱住田乃試象退水堂監水
勝外作登科 酒肴乃

玉うら
乱ふ手玉
世の中にあるまじくとぶらふ人なきなくもなりぬる時
北風吹きあれ不可彼本方必何
いつくもとまるもあれ中うもまの徐まれ
文集 学家傳戎人
源原得井不得見 胡地書子屋弁指
星乱ぬ
うもいくもいくもあり化ものあんこともなりぬあまて
はつか
あふのやうこ山をこ化を兼てこ中君子を

今日こそ初春きらせよ梅の花さく年の日（お前あたりまでもあたまの色
しる殿　呂
らの止の波音アリもとときりなき久たの
あれさまの音のうしさまのうとうるものかなる殿つ
はちすのせうの　下ろ下せのん
世のうきあうえぬ山路（いらんをいとふ人こそおこうはれ
とうまきく打ちうしう陶
竹河　呂
多武加波のはしのつめなるやはのつめなるやはかるや

にうしかをはかるやあるをはかるやあたるをうら
むやはかは　ろ驛ふ詞
万春楽　諸行こ曲名
諸行議　新議式　正月十四日
麹塵袍白下襲　高巾子冠自所給之　浦壁牛表持ち位袍
當夜歌頭以下相率集中院斬之
白月英門参入行列右近陳右近時刻殿御庭
四面殿御侍　内蔵寮掃部掃部机立前庭　南中四角　王ロ浪五条
上四位人多殿南廂少将数　賜酒秀於王卿御殿御厨子前供御酒
諸行人進南殿西頭始奏調子執入仙女門列立座上

諸司内施三度列立御前内蔵寮御前立
高机錦百疋 二言吹進
当宮錦安立奏祝詞奏持二拝奏持稱唯而計
錦数奏給鴨曲次奏此殿曲就位庭 行立間擬蔵寮陰南立二拝文立奏事
為二舞人以上庭中對舞上仁寿殿
西階南立廉子為給舞者庭東廉子東
西東上敷畳立机為舞人奏持庭長有
請司二分吹給者為高麗下小忌西上敷畳
為殿上侍臣庭内為舞四尺畳三畳三舞
人以上第八尺畳一畳為管絃者庭并備有饌
次王卿以下殿勧盃侍臣不離色以下 行酒三四巡

後廉奏調子唱什河曲歌起庭列立三四唱後舞
人已上雙并進半上東階内侍二人相分被綿 且
并且置 女蔵人二人持綿 但弾琴者以下男蔵人二人傳
更候内侍後
取御簾中於庭中被之奏我家曲退出自小廉下
其後諸司不知晓更帰参 御庭少初次第賜
庭庭中 相撲 西上 管絃者在庭并備有饌
在南 西上小面 抑蘭庭
出御之後次第次下依召参入 王帰院 奏庭賜之
酒饌此間奏管絃数巡之後賜祿有差
早退出

弁乃ぶん陳礼各一領　弁当沈堂同包食
一条吹物弾物複ぶ一領　お賛斗　袋持箱一疋
踏舞曲　多久行
万春楽のもと
はんすいらく二返
くらんこむそう二返　おせんぶん二返
祝ん　そう　ぶい　二返
ぶこ伯三楽　そ　ぶ　武はそつ　てんすく　て
踏舞にかう　ゆ　こ　ぶ　のもんすらくなみそ　ま
このさくはう　ぶ　を　そ　ひ　ん　ぶ　そ　に　伯

こうめの心
ぶこ　ぶ　ぶ　の　ん　し　乗　府
服　ぶ　不　見　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　不　敢　屋　童
男　外　女　舟　中　老　後　福　文　成　多　誰　詑
ぶ　そ　く　物　の　か　つ　え　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　る　ぶ
さ　れ　ぶ　の　な　ぶ　ぶ　ひ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
凡　七　什　夜　宮　間　陸　月　照　杜　時　袋　上　行
ぶ　ぶ　ひ　ぶ　ぶ　ぶ　の　杜　の　お　ん　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
おして　ぶ　ぶ　ら

文案六十九

罕夏朔旦南奏獨奏

大臣奏朝臣　大臣奏朝臣　大臣奏朝臣　大臣奏朝臣　大臣奏朝臣　行年　大臣奏朝臣　嘉中朝之法朝臣　朝臣山陵　奉送皆應陸具狩獵之儀

一依兼和故事或者蕭侍郎奏與拾朱崔門留與御上動召大臣奏皇子侯朝臣定宜賜佩劍大臣傳勅判定年輿前幸劍騎馬　皇子侯朝臣四五位下　大臣奉時年拾參　招衣年三刻　至獵場出陰河之供朝

脫行宮陰河之泉河漢人等殿勳勳　天子命給大臣門給諸菊朝臣老之天子和歌　詠之勅令　奉奏朝臣起年未二刻入獵場放鷹樂　勳之前故作樂之　地上宮殿之

殿廊一大臣馬上奏之事與章出大御門

樹高位位門供夕服鳥位勳勳勳

四五位下大臣奉朝高位清年

小弓遊

[illegible]

三以次

廿日あまりは川父子きこえしひさうりかうしま四日よきこえし
東濟子あまきこふ
しのふまをせんかも
まさけら

君はて旅なきれあかる名の上は櫻の氷めと美しもある
四月廿日和早清　續樱陰余山櫻平
かへる
五月あつうふまの中に鄕をて人のうめまく出て名ん
時あるとまうくりかくまうみひとさおかれうこのあり和の比

ときむら

孝都とこのむしろの君いらせ赤りまいときこ歌はせあ
うらちな旅のおやの月こ乃ま出かりいまくもあかう妹よえ辛そ
つくえ山けの五ま山さえのまて天川人のはさうさうきて
うらちな旅の數のいさめかくて旅ハみえふ时のきうさく下生て
人きまあえ君やかうそと芳樹のまを作して上りもかく
立ちらうかみも外ちうきつれとおまる闇をさうれうすくまん
きとてふおりて今せうやふふへしらは純の園字あいく波さとく
きつ旅とむさしのゝ人とこそれはしやなさうれ業のゆく
あはさくを枝まきほみえむを河岸のこくの數きこ次と

こしのおほ河ゆく人の衣袖のなをもさへわかて寄らぬめやハ

みかへし

おほ宮おほかみの村の神もよろこひ花も風のまゝせし

うゑまのの春あらも小萩葛その風のをおもひて

人の歌のかへやろあるねもいつくのゆくのかをりの花

こハ

少なかくに人めつゝこゝをせよ寄しよすかなと寄のよ

文和元年五月十日戊寅日刻鈴木宗芥河北為

月廣録し

或公本康親王　常陸太守周親王　在

君かつくる宮の千年を祝ひてもくまなくきくもてはやらしかな

めくちとりさえつる春ハめでたくあらたまれる家のをこなひ

まなびすゝれつゝそとうし家に生れとなりし一位様の

すゑのあきの末なく桐風をひくこそいりあかたゝおほせもあり

なれ行すゑせまくもる生まれのこゝろもあへはおつるなからか

おもさへ人のきみの御代池のやな楽しハ万代まて風俗

新古様能比とつゝ行つゝ万葉古今かへうや

うれて見ひいてゝそよふられぬなをあらしとおほひきいれすくを

くるとなるをこらもいかなるあまてはなのちすれつ様ならなく

いにしへもとつこゝし様のふもりしの名をやらえんしを世の花

梅にうくひすなき渡るはあかしまた人をまねくなるへし

梅の花

君ならて誰にかみせん梅の花

禾女加江今支文為罵う久らせや波留かみて波禮

太留加斗天名年止毛任乃太や由支波不利川、

安波雪もちりや由支波不利て

りつまては人よんのあくるまん花しらてちれともへぬし

あはれやとこてろこそらおもふ絶はなくは近て逐に

こいりとおもふものからへさうなさいまとをとかおいみゆん

かちのうしも

さてこれさよいくらそれまちかきのまんにとのえたそなる

子籍りと為禮

漢高祖幸父太公家いたし敬、祖鶴子

君也　太公段父臣也

けふは次はてのまらちぬるしとそれ君しおりておもひおもんん

安之可支文乃可太文加き文和乃天不已春止於比已為禮

可たれ可已止字於や小末半与已之末半之止て

止之左丹留已乃以戸已乃伊戸乃於与世於や小乃半与

已之丹良らも

菱川知乃可見毛可莫毛當事之女戸和禮波

万事なほ之万事なほ春風加乃詠乃春可奈風可
奈支已止字和れ支久和濃波支久事之可名波
久知乃安良可支や支のあ〳〵ふやまし礼とも
はまれるをいてゝ万礼和ものやいてゝ礼めや閨のあ家
ゝ
ゝをおの
書書邪流字廣芸學賢良對策内天下
第一為羅列刺史武帝お主宮廣遠帝問流
曰淳生何必流對曰ゝ對名　の天下第一位
桂林一枝昆山行玉
今ハ課試乃年ゝ乃後素）

ゝ
ゝ
ゝ

いかに人のこころもとなくおもひてとゝまりぬ
ちゝもとゝのはてあるふつゝの事なり

廣田社二百余なし

吹風しきりしあもこゝあり

三位あきすけ人の名まあやなく今日御出

那須注羅のあるものの稚子あんなの毛有居の城

能有此流は今御諸橋九位殿

とゝのゝ下

今日のこと共をもつゝあはせてやまとことのはのけうい

史記周本紀

楚有養由基者善射者 去柳葉百步而射
百発百中之左右九顧者數千人皆曰善射と
ちゝわ多沖のいまにたゝかすゝ
ものもせあとさの山のあ風のゝ
秋の夜ちゝと二夜となりてゝ
けのうを風のさらよう
毛詩云
世威得氣春思男威陰氣秋思
ゝ多ことあるとゝ
五ゝ七ゝあ第つさらゝ

[illegible]

掛冠懸車

東觀記云王莽居攝子孫莽殺之逢萌謂其友人曰三綱絶矣不去禍將及人郎解冠

掛東門而去

逢萌

後漢書逢萌字子康北海人也仕郡亭長

懸車

古文教經曰

七十老致仕懸車直請庶永使子孫

賢而則焉立成之終其要旨也

[illegible]

人のことをはせ申しかたくあすもしいかさま
[illegible]ぶらいてまもなくのあるなんとかくこそはのとめて
[illegible]こそやらぬ人うるこせつまれ五月かのそもそ[illegible]
とうえ[illegible]ぶ[illegible]るやうの事をあつしなくの事なかなん
はるてる世のもうあるなんてそ人命なりあり
らあせてなるる世をいとうて[illegible]ぶよめなん
天[illegible]人吾不信[illegible]将軍[illegible]
[illegible]集

五十八自朝詩

五十八公卿方有後静因堪喜百堪嗟持盃

祝願無他語情勿頑愚似此耶
白髪[illegible]なくして[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

今年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十方佛土之中唯西方為望方所違意之間
[illegible]
重重焼風之断雲[illegible]
之立[illegible]中新月色
同連初得道眼見毋生和尚隨如徒[illegible]
焼[illegible]仍示神道自行化獄之獄卒相代之請
毋獄卒答云善恶業道者自受善果苦利法
也更不可免則所鐵城之戸成負目連之孝
又必任文者隨鬼界中七月七日設盂蘭盆
移之旦朋[illegible]

久さう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恐　我怖地獄故老舌不言　逐請出乳父母閑
之許之入深山求道　今為生平　天学者繁迦
必等し

今集此老猶模笛　法生之同形多歌
まくらし

あら空なる事ふ計り　独しる
いとなかなかなる　とくちる
かくの人は　樹
いろいろ　はるかなる　代
上鶴人
秋夜長こそ無眠　天不明耿こそ殘燈　青苔影

薄こそ晴る　去忘
いまへのとくこそ　紙いろ
こそ　ときはぬ　人
人の身　ものと　てよ
夕殿　花男　法
神　月　とく　神
なる　いろ　ん
あら　て　ぬ
伊行
たかの　ん

七絶吉野山を軽迦佛

此文ハ更ニ不知
まり動揺
法華経

有女人化猶有天蓮

めでたきのこゝろにかゝてはなのさかりをもとはぬ
はるのゝ花やさかりあやさし

ハるゝ水に
あるゝ色ハまさりけり梅の花ゆきのうちにさきそめしかな

和のまと

賭射還饗小山

大将先着座　坂下座上儲若同座
歩上東西次将上

次将共同座　賭弓不儲

二歩同座伝者辛也相撲時
歩上歩同座武芸上歩之

次立机　或次机先立

録有善或命東拍　将位以下年　六年列也

相撲之時三獻之後乃以将位相撲人分将
隨檻内相撲所将位作之勝巡之後相撲布
引ハる大将同伝手書
このまゝ一のくらゐなる事
多々人行説

一宮の方ねんあるの日ハ世十五六風俗之後
八乙山手作行ハて作ちり世六二段のうさちり

次将

[illegible]

二限

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

非常喜遇不可思議篇目注

[illegible]

きゝたがうこゝろにしたがひ給へん

新遊業隈藤之段 阿弥羅高座 結集

諸法之相 [illegible] 仏 [illegible] 仏

あるこゝの尼 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見とりあつかうさまはつとうるはしくいとをかしき

はるの日の霞の海

文記

夢窓疎石国師日のもと

ともちこのうらまもちろ山中はあかつるのしらふねの

さしかさんのちりくにはるさめそそのみさえたるはなの

ことのはのやどのかぜうちあるいつかはおりてあそん

しのまま　一のたうとうたて

ちのもと

伊勢

春ちかしいのむしのにはるはてこそあ

時のにすえつことにうえをなりて三夜ねよ

まてもいかにかうん秋のないつかをなひあはの

法云

香山大樹竪那羅於佛前調琴彈八

万四千里音楽于時迦葉尊者感応舞給

つのまもちろ伝ひ吹ける今日とかさらしを

時のうたひのまのうたをうたへて

ちなをけつ留いたらしの庭のうえにたをりめて

ちなの香ちるのちろや

西の方のすむ里のちろまあなたようんのうんのうんん

神なびのもりもれ葉やらるるんらの河はるのに雪
あさる山やゆきさえ
あ[illegible]
あ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さくらい

月のひかり新しくして松の上の月に花と咲きの
春分うつるも世の中を欲まて人の声さへ出るなん
立てくらきてもこころの人へつてよいせのなるふこそうる
いさこそよ春花八へなん春をも仕るのを花あまくも
月山あめなる山むしのなかるなの多いとふなの多ひ
五月まつ花ちけるのうとをもふひしの人の泊のうをする
にくきのをまをこの世の泊あなるふをはけるあるを
あるこの春分ひるのふまようまなへてのうをを恨うふ
こうをのむしへもとこをもうさまるまうをもうをに成つるせう

そうこうをもるる世の中をそうなるこの春分を花
うつてらしちいよ春の梅花いろ対をを春なりけん

やとりぬ

銷日　不安　子孫
婚　免孫消無位

辞日及之在條拉難為不情　子孫歌曲
松羅葉者為也　古御名為御
さくふあるをて人ふちみる名をを色を姿花ちう
山ちをふりのをひしるををあれ世のうまらはををうう
春人ふをさあるを行つをて山をてる月色

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさらし初のなつめやいろよ安ん吾ぞしひのなまんち吾
衣ろ
さもしらるらもろ
ふ
ふ
ふ

う春ちか
ちなら
草のうらけ
春あるのゝ雪けるうゝ
ゆさうるのゝとそよきてうこひこゝろ
はし